

科目名 (科目番号)	栄養学 (時間割参照)	教員名	池本真二	学科等	看護	必修	履修年次	1
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
				授業形態	講義	オフィスアワー	D312室に掲示	
授業概要	看護における栄養の基礎知識、各疾患における栄養食事療法および、臨床における栄養ケア・マネジメントの知識とスキルを理解する。 また、生命活動を維持するための栄養および栄養摂取の目標について知識を養い、どのように栄養食事療法が実践されるかを学ぶ。							
目的・目標	目的: 栄養の基礎知識を理解し、臨床における栄養食事療法および栄養ケアの実践について理解する。 目標: 各栄養素の役割、代謝の過程とエネルギー代謝、栄養ケアマネジメント並びに栄養食事療法についての知識とスキルを習得する。							
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授 業 計 画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	栄養学と看護	到達目標: 保健・医療・福祉における人の栄養の在り方、食事を看護の重要な要素に位置付ける考え方を理解する。 学習内容: 保健・医療・福祉における人の栄養の在り方、食事を看護の重要な要素に位置付ける考え方を学び、栄養ケア・マネジメント、チーム医療の重要性を知る。					
	2	栄養素の種類とはたらき	到達目標: エネルギー産生栄養素である糖質、脂質、タンパク質とビタミン、ミネラル、食物繊維、水の働きを理解する。 学習内容: 人は食物からエネルギーや栄養素を摂取することによって、生命の維持や身体活動を行っている。その源となる糖質、脂質、タンパク質及びビタミンの種類と働きを学ぶ。					
	3	栄養素の消化・吸収	到達目標: 栄養素を食物から効率よく取り出し、体内に取り入れる生体の消化・吸収機能について理解する。 学習内容: 人は食べ物を摂取し、消化されて消化管(主に小腸)から体内に取り込む(吸収)機能について学ぶ。					
	4	栄養素の体内代謝	到達目標: エネルギー代謝や他の栄養素への代謝変換を理解し、血液循環を介した組織・臓器間の物質代謝について理解する。 学習内容: 体内に取り込んだ栄養素を体内で効率よく利用する。エネルギー産生栄養素については、生体内においてエネルギーや他の栄養素への代謝変換を、ビタミン・ミネラルについては、代謝上の役割を学ぶ。					
	5	エネルギー代謝	到達目標: 食品中の生体利用エネルギー量の概念を理解するとともに、生命維持や身体活動のために必要なエネルギー量(エネルギー必要量の考え方)を理解する。 学習内容: 食品中の生体利用エネルギー量の概念並びに生命維持や身体活動のために必要なエネルギー量、エネルギー必要量の考え方を学ぶ。					
	6	食事と食品	到達目標: 健康づくり、疾病の発症・重症化予防のための食事パターン、食品構成、食品群について理解する。 学習内容: 健康づくり、疾病予防・重症化予防のためのエネルギー・栄養素量を学ぶとともに、食事パターン、食品構成、食品群について学ぶ。					
	7	栄養ケア・マネジメント①	到達目標: 「栄養ケア・マネジメント」の基本概念ならびに基本事項を理解する。 学習内容: 栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画の立案、栄養ケア計画の実施とその確認、栄養ケア計画の評価等のプロセスから構成される「栄養ケア・マネジメント」について学ぶ。					
	8	栄養ケア・マネジメント②	到達目標: 栄養アセスメントの方法(A: 身体計測、B: 臨床検査、C: 臨床審査、D: 食事調査)を理解し、栄養状態の総合的な評価・判定ができる。 学習内容: 栄養アセスメントの方法(A: 身体計測、B: 臨床検査、C: 臨床審査、D: 食事調査)並びに栄養状態の総合的な評価・判定の考え方を学ぶ。					
	9	ライフステージと栄養・食生活① 乳児期、幼児期、学童期並びに思春期・青年期	到達目標: 乳児期、幼児期、学童期並びに思春期・青年期における主な栄養課題、疾患並びに、栄養ケア・マネジメントのポイントを説明できる。 学習内容: 乳児期、幼児期、学童期並びに思春期・青年期における主な栄養課題、疾患並びに、栄養ケア・マネジメントのポイントについて学ぶ。					
	10	ライフステージと栄養・食生活② 成人期、妊娠期、授乳期、更年期	到達目標: 成人期(妊娠期、授乳期、更年期を含む)における栄養課題及びその栄養ケア・マネジメントのポイントを説明できる。 学習内容: 成人期(妊娠期、授乳期、更年期を含む)における栄養課題及びその栄養ケア・マネジメントのポイントについて学ぶ。					
	11	ライフステージと栄養・食生活③ 高齢期	到達目標: 高齢期における栄養課題(特に、低栄養とフレイル)及び栄養ケア・マネジメントのポイントについて説明できる。 学習内容: 加齢に伴い身体機能が低下する高齢期における栄養課題及び栄養ケア・マネジメントのポイントについて学ぶ。					
	12	臨床栄養① 病院食、栄養補給法	到達目標: 医療機関における栄養食事療法の基本事項を説明できる。 学習内容: 病院食、栄養補給法、経腸栄養製品、静脈栄養剤などについて学び、病院における栄養サポート、栄養ケア・マネジメントの実際について学ぶ。					
	13	臨床栄養② 疾患・症状別食事療法①	到達目標: 疾患・症状別(低栄養/過栄養、肥満・メタボ、循環器疾患、消化器疾患など)の食事療法並びに栄養ケアのあり方を説明できる。 学習内容: 疾患・症状別(低栄養/過栄養、肥満・メタボ、循環器疾患、消化器疾患など)の食事療法並びに栄養ケアについて学ぶ。					
	14	臨床栄養③ 疾患・症状別食事療法②	到達目標: 疾患・症状別(栄養・代謝性疾患、腎臓疾患、呼吸器疾患など)の食事療法並びに栄養ケアのあり方を説明できる。 学習内容: 疾患・症状別(栄養・代謝性疾患、腎臓疾患、呼吸器疾患など)の食事療法並びに栄養ケアについて学ぶ。					
15	臨床栄養④ 対象者別栄養管理、病気別栄養管理	到達目標: 対象者別・病気別の食事療法並びに栄養ケアのあり方を説明できる。 学習内容: 対象者別・病気別の食事療法並びに栄養ケアのあり方について学ぶ。						
成績評価の方法・基準	振り返り(確認)テスト(20%)、期末試験(80%)を総合して評価 (対面・オンライン共通)							
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学			代表著者: 中村丁次		医学書院		
参考図書	糖尿病食事療法のための食品交換表			日本糖尿病学会		文光堂		
教員からのメッセージ	傷病者への看護を学ぶ上で、栄養ケアの知識も重要となります。患者さんに対してよりよいケアを実践するうえで、栄養の知識および栄養ケア、栄養食事療法について学ぶことは重要です。皆さんが興味をもって学べるような授業を展開したいと思います。 クラスルームを活用して講義資料の配布、振り返り(確認)テストを実施するので、毎週確認してください。 また、オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知いたします。							